

(2) 成果指標評価表

|      |                 |
|------|-----------------|
| 柱    | 1 社会環境          |
| 分野   | A 大気・ばいじん       |
| ビジョン | きれいな空気の中で暮らせるまち |

成果指標1 降下ばいじんの量 (t/km<sup>2</sup>・月)

| 年度  | 市内平均 | 北部平均 | 南部平均 |
|-----|------|------|------|
| 基準  | 4.4  | 3.3  | 5.4  |
| H17 | 4.6  | 3.4  | 5.9  |
| H18 | 4.8  | 3.5  | 6.2  |
| H19 | 4.8  | 3.5  | 6.1  |
| H20 | 4.7  | 3.2  | 6.2  |
| H21 | 4.2  | 3.0  | 5.6  |
| H22 | 3.8  | 2.9  | 4.9  |
| H23 | 3.8  | 2.7  | 4.8  |
| H24 | 3.8  | 2.7  | 4.8  |
| H25 | 3.5  | 2.7  | 4.1  |

**主な事業**

大気汚染常時監視  
降下ばいじん等調査  
公害防止協定による立入り調査  
及び防止対策の指導

計画通りに成果が上がっているか

目標達成

順調

順調でない

**成果指標の分析**

減少傾向にあるものの、23年度降下ばいじん量は、市内平均3.8t（北部平均2.7t、南部平均4.8t）で22年度と同数値となった。臨海部企業は対策を実施しているが、発生原因と思われる対象が多く、発生を防止するための技術の急激な向上は見込めない状況ではあるものの、細かなばいじん防止対策の積み重ねが効果に表れている。なお、気象により測定値は、悪化する可能性も見込まれる。

成果指標2 大気汚染基準値の達成率 (%)

| 年度  | 達成率 (%) |
|-----|---------|
| 基準  | 73      |
| H17 | 75      |
| H18 | 80      |
| H19 | 75      |
| H20 | 80      |
| H21 | 80      |
| H22 | 80      |
| H23 | 63      |
| H24 | 80      |
| H25 | 90      |

**主な事業**

大気汚染常時監視

計画通りに成果が上がっているか

目標達成

順調

順調でない

**成果指標の分析**

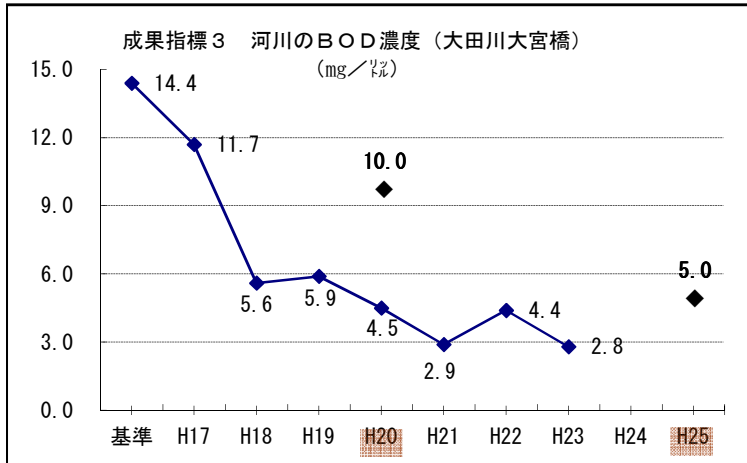
事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、23年度は二酸化硫黄・二酸化窒素が環境基準を達したものの、浮遊粒子状物質は6局中3局が、光化学オキシダントは全局で未達成であった。なお、浮遊粒子状物質は、5月に西日本全域で黄砂が観測された日が連続したためと考えられる。また、光化学オキシダントについては、発生メカニズムが複雑であり改善が進んでいないため、全国的にも達成率は0.1%程度であり、効果的な対策がないのが現状である。

成果が向上する余地（可能性）は？  大  中  小

**成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針**

降下ばいじんは、南部が北部の約2倍と多いため、発生原因の分析をさらに進め、引き続き企業に対して粉じん対策等、環境対策を指導し実現することで改善していく。  
大気汚染基準値では、現在光化学オキシダントの効果的な対策はないが、18年度から始まった揮発性有機化合物（VOC）を減らすための新たな仕組み等、関連各機関における総合的な対策を実施していく。

|      |                  |
|------|------------------|
| 柱    | 1 社会環境           |
| 分野   | B 水質             |
| ビジョン | 川や池を身近に感じて暮らせるまち |



**主な事業**

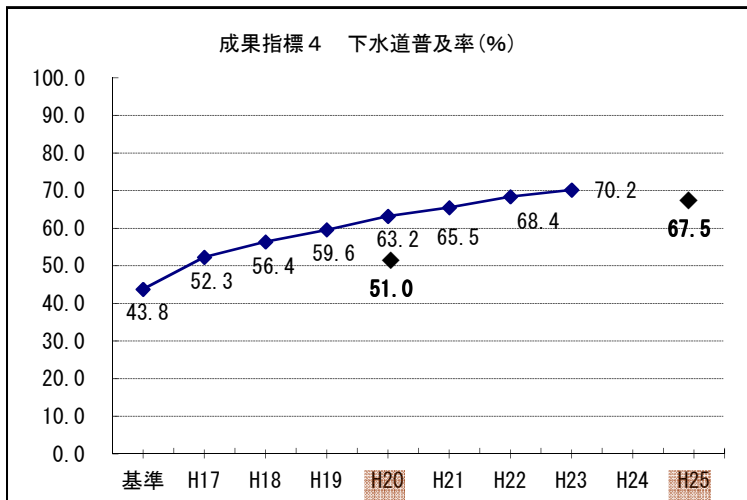
河川の水質調査(8箇所、年4回  
大宮橋のみ年8回)  
河川・ため池水質浄化事業

**計画通りに成果が上がっているか**

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

**成果指標の分析**

河川の水質調査は、年8回の平均値のため季節や天候に左右されるが、20年度以降は全般的に数値が改善されている。その理由は、下水道の整備により生活排水の流入が減少したことによるものと考えられる。



**主な事業**

污水管渠整備事業

**計画通りに成果が上がっているか**

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

**成果指標の分析**

23年度の下水道普及率は前年度に比較し、1.8ポイント増加の70.2%となった。これは、名和町、加木屋町で整備済面積が増加したことによるもので、当初の目標である25年度の目標値67.5%を超えることになった。

成果が向上する余地(可能性)は？

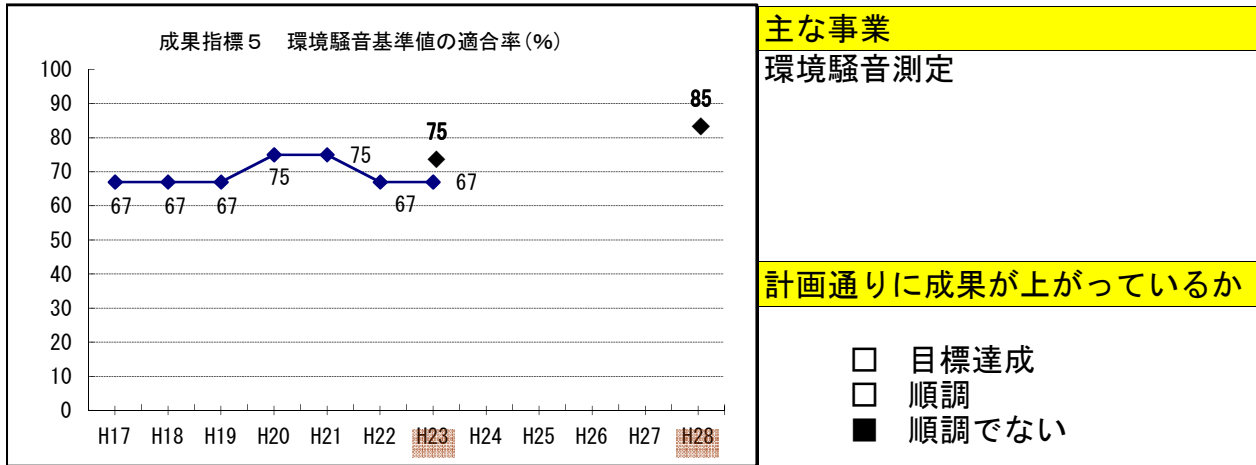
大  中  小

**成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針**

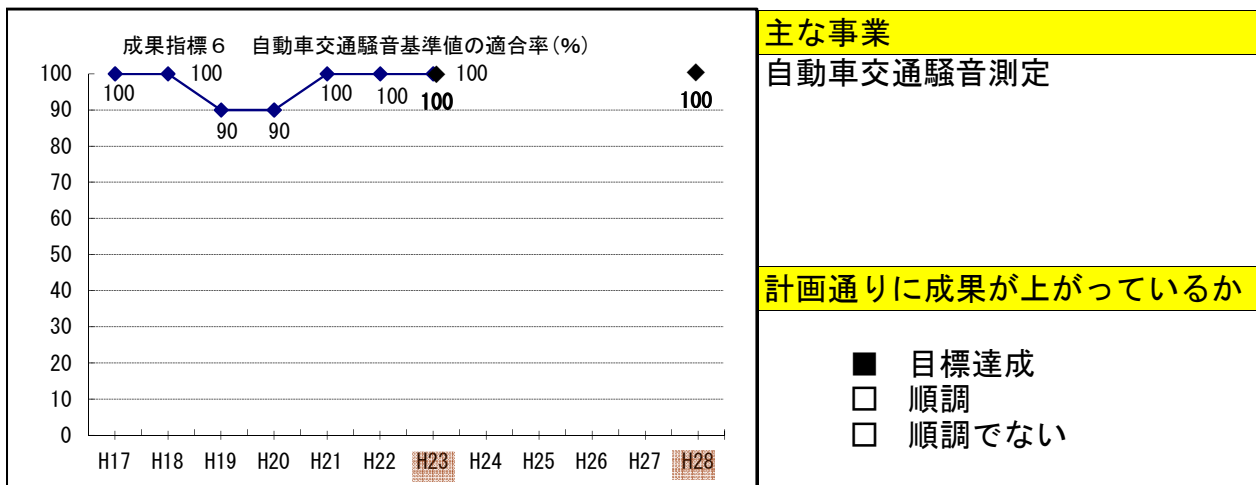
河川の汚れや海域の汚れの原因は生活排水よるものが大きいため、さらに下水道の整備をする必要がある。

下水道の整備は污水管渠整備に多大な経費を要するため、一度に成果を向上することはできないが、事業認可内の面整備工事を実施することにより、成果向上を目指す。

|      |                |
|------|----------------|
| 柱    | 1 社会環境         |
| 分野   | C 騒音・振動        |
| ビジョン | 静かでおだやかに暮らせるまち |



**成果指標の分析**  
 環境騒音は、名和町2地点、中央町、中ノ池、横須賀町、加木屋町の市内6地点で調査を実施している。23年度は、昼間の基準はすべての地点で環境基準を達成したが、夜間は名和町の2地点、中央町、中ノ池の計4地点で達成できなかった。



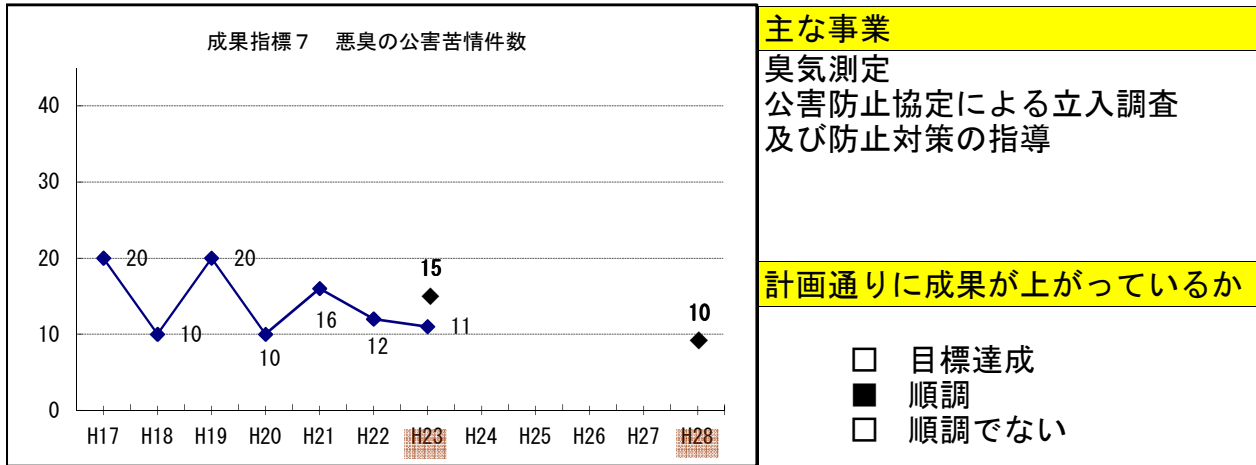
**成果指標の分析**  
 自動車騒音は、名和町2地点、荒尾町、高横須賀町、加木屋町の市内5地点で調査を実施している。  
 23年度は昼間、夜間において全ての地点で要請限度を達成した。

成果が向上する余地(可能性)は？  大  中  小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

環境騒音が夜間に超過していることから、交通量増加に伴うものと考えられる。直接的な対応は難しいが、環境にやさしいライフスタイルに見直すような啓発活動を推進する。

|      |               |
|------|---------------|
| 柱    | 1 社会環境        |
| 分野   | D 悪臭等         |
| ビジョン | 健康で安心して暮らせるまち |



**成果指標の分析**

23年度の悪臭の苦情件数は11件で、前年度より1件減少し、23年度目標の15件を達成した。  
 苦情の内訳として、不明が5件、農業が3件、家庭生活・製造業・建設業が各1件であった。

成果が向上する余地（可能性）は？  大  中  小

**成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針**

23年度の目標値は達成したが、苦情件数は年度によって数値にばらつきがあるため、28年度の目標値達成は不透明である。今後は、固定発生源の対策の啓発、指導、巡回パトロールなどを行い苦情件数を減らしていく。